

1. 第1種委員会：社会人連盟

<p>2021年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会を円滑に運営する。 ・県内リーグチーム強化。 ・各種大会の運営力の向上。 ・栃木国体に向け三重国体へ出場する。 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・トーナメント大会参加チーム数を継続する取り組み ・新規チーム数を増やすための取り組み ・登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み (2022年度から1部リーグチームへの帯同義務化を目指す) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組み <p><数値目標> 三重国体で成年男子チームがベスト4になる。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
<p>2021度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大会の活性化(3部決勝大会参加チーム数の見直し) ・全国大会の運営 ・Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し安全な大会運営を行う。 ・国体成年男子チームの強化練習会を月に1回以上行う。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会。 ・全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・国体関東ブロック大会 ・県内トーナメント大会・リーグ戦 ・J2・関東リーグチームとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝</p> <p><スローガン> サッカー環境の整備（気持ちよくサッカーができるように）</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・審判員の充実 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入 ・とちぎ国体に向けた大会運営能力の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・各大会における技術・記録係等の研修 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上 <p><数値目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに90%以上のチームの参加 ② 公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③ M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④ マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサーの10名以上の養成 <p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・各種大会レギュレーションの見直し
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ) ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会 ・マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

<p>2021年度の活動目標</p>	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症に対応した連盟運営の推進 【競技】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行 【地域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加 【技術】①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②地区トレセン指導者の育成とレベルアップのための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携 ⑤女子の指導者養成 【審判】①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。 【記録広報】①正確な情報を迅速に提供 【女子】①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと</p> <p><数値目標> 【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守 【技術】 関東選抜大会ベスト4以上 ナショナルトレセン10名選出 【審判】 3級審判員10名以上の増員（昇級）</p> <p><スローガン> 【技術】 日常を変えよう 【審判】 基本に忠実に 【記録広報】 正確に・迅速に・効率よく</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症対策の継続 【競技】①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営 ③WEB等を積極的に活用した大会運営 【地域】①トップリーグ・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会（県大会会場確保） イ 技術強化委員会（県トレセン） ウ 審判委員会（4級更新講習会） エ 広報委員会（地区及び県大会結果の報告） オ 女子委員会（県トレセンへの推薦） 【技術】①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセンとの合同開催や指導協力 ③指導者の質の向上 ・指導者研修会の設定 ・県技術委員のB級取得促進</p>

	<p>④審判との連携によるたくましい選手の育成 ⑤女子の指導者養成</p> <p>【審判】①3級審判員の昇格に向けたサポートを充実する。 ②各種講習会や研修会で3級インストラクターが講義や実技を担当する機会を増やす。 ③リーグ戦や各種県大会への審判員と指導者の派遣。</p> <p>【記録広報】①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報共有の効率化</p> <p>【女子】①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>【競技】①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】①地域委員会の定期的開催（年12回開催） ②トップリグ・地域リーグ・地区予選会の運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】①県トレセンと地区トレセンの合同開催 ②ナショナルトレセン研修会への参加促進 ③関東女子トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、ナショナルトレセン選考会、ナショナルトレセン、キャンオンガールズエイト、関東選抜大会</p>
	<p>【審判】①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者） ・インストラクター研修会（3級インストラクター） ・3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者） <p>②3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県トップリグ ・新規4級審判資格取得講習会 ・上記①の各種研修会 <p>③他種別・他事業と連携し、審判員を派遣・参加できる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社会人リーグなど（1種） ・高校サッカー選手権大会（2種） ・下野杯（3種） ・レフェリースタートアップセンター

5. 女子委員会：女子連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 ・JFA 普及コーディネーターの活用 ・ゲーム環境の整備 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技人口 50 名増 ・女性指導者 D 級 10 名・C 級 10 名増 ・女性 2 級審判員 1 名、3 級審判員 3 名増 ・なでしこひろば開催団体 3 団体増 <p><スローガン> 未来に繋げる！</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-13~16 トレセン活動の充実・強化 国体少年女子選抜チーム(2022年)を見据えた取り組み ターゲット年代の強化策 U-17~国体成年女子選抜強化 ・普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。(例: JFA なでしこひろばの活用) ・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 ・新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン女子 U-13~16 ・U-12 女子トレセンとの連携 ・グラスルーツ ・ガールズ・レディースフェスティバル ・審判トレセン、チーム帯同審判研修会

6. クラブユース連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出(各年代別強化) ・帯同審判の質の向上 ・全国大会(クラブ選手権・高円宮杯)への出場 <p><数値目標></p> <p>関東大会でのベスト8以上 全国大会への出場</p> <p><スローガン></p> <p>未来を担う選手たちと共に！ (高めあい・競い合い・認め合う)</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグを含め U-14 の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・栃木国体に向けて、U-15・14 の強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグ・U-13 リーグ(関東・県) ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

<p>2021年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チームの登録及び参加 ・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・全国大会予選会の突破 ・JFA 第 20 回全日本 0-50 サッカー大会の栃木県開催 <p><数値目標> 各年代（0-40・0-50・0-60・0-70）の全国大会出場</p> <p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・KTFA 第 9 回関東 0-70 サッカー大会の開催、大会運営 ・JFA 第 20 回全日本 0-50 サッカー大会の開催、大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代及び地域の役員メンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（0-40, 0-50, 0-60）5月・8月9月 ・シニアサッカーリーグ（0-40, 0-50, 0-60）4月～3月 ・JFA 第 20 回全日本 0-50 サッカー大会の開催 6月 ・KTFA 第 9 回関東 0-70 サッカー大会の開催 7月

8. 技術強化委員会

<p>2021年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 栃木国体+10 年を視野に入れた諸事業の実施 ・ トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・ 栃木 TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用 <p><数値目標> 関東トレセン大会各種別 A クラス入り</p> <p><スローガン> 全県一致</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (* 新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国体強化策の具現化 成年男子：2022 国体チームの決定。 選抜チームか、単独チーム化の決定。それに伴う監督・スタッフ体制の決定。 女子：成年選抜チームの発足、栃木 SC との連携 隔年強化の具体策の作成。 少年選抜チーム作りに向けての具体的アクション 2022 年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 少年男子：U-16 早生まれ及び U-15 県トレセンの強化 2022 年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 ・ トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために） ・ 各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内 B 級コースの開設 ・ テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 県内 TSG レポートの作成。予算化。 ・ 各種連盟や委員会との連携、そのための技術委員会組織の再編。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-16 早生まれ・15 県トレセン強化策 ・ U-16 女子トレセンのサポート ・ 新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策をしっかりと行い、選手たちの活動機会を確保するとともに、より効果的なトレセン活動を充実していく。

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2021年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出 ・全国大会への出場 ・フットサルの普及 ・審判員の養成 ・会場の確保 <p><数値目標> 関東リーグへの進出（関東2部、関東女子） 各カテゴリでの全国大会出場</p> <p><スローガン> 栃木のフットサルの競技力の向上と普及・振興</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの競技の充実 ②各年代におけるフットサル大会の運営の充実 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の情報の発信の工夫と促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルフェスティバル ・オープンフットサル大会 ・施設交流大会 ⑤県内におけるフットサルのPR（県協会HP） ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木県大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県大会 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリー（大学、U-18、U-15）のフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサル ・オープンフットサル大会 ・施設交流大会 ⑨審判講習会の実施

10. 審判委員会

<p>2021年度の活動目標</p>	<p>①国体に向け、審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。</p> <p>②審判トレセンは毎月1回第3日曜日（フィールドトレーニングは第3土曜日）に固定し実施する。講義形式だけでなく、フットボールセンターを利用して、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。</p> <p>③スタートアップセンターを軌道に乗せる。その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。</p> <p>④大学生向けの講習会を実施し、即戦力の審判員育成を図り始めた。今後も継続し、国体でサポートができるような大学生を育成する。</p> <p>⑤シニア、フットサルにおいても限られた人材・予算であるが、改善を目指し、各大会・講習会をスムーズに運営する。</p> <p>⑥ユース審判員の育成を図る。</p> <p><数値目標></p> <p>①審判員登録数を1級：7名、2級：60名、3級：500名、女子2級：4名 3級：6名</p> <p>②4級：4500名、フットサル：600名、女子審判員：180名を目標に育成する。（中期、長期）</p> <p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND 'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦) 十河</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<p>（1種）</p> <p>①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を育成し、チーム登録審判員に3級審判員の登録拡大を図る。</p> <p>②3級審判員研修会の実施 3級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。</p> <p>③3級インストラクターの新規増員 チーム登録審判員及び派遣審判員への助言・指導の機会を増やす。</p> <p>（2種）</p> <p>①4級ユース審判員の更新の定着を図る。</p> <p>②ユース審判員の育成を充実させる。特にユース3級審判員の増加と、国体に向けてレフェリースクール卒業生の2級審判員昇級と育成を図る。</p> <p>③若手顧問の指導・育成を図る。</p> <p>（3種）</p> <p>①審判研修会の充実 ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会（年1回以上）の実施（計画・報告書の提出） ・インストラクターの活用</p> <p>②若手審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の育成（2級審判員・3級審判員の増員） ・3級審判員と3級インストラクターの増員</p> <p>（4種）</p>

- ① 3級審判員の増員と育成を図る。
 - ② 3級インストラクターの活動の場を増やす。
 - ③ 他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。
- (女子)
- ① 2級審判員2名、3級審判員2名の増員を図る。
 - ② ユース向け女子審判トレセン年2回実施。
 - ③ 3級審判向け競技規則研修会の実施。
 - ④ チーム帯同審判員の実技研修会の実施。
 - ⑤ 公式戦決勝を女子審判員4名で実施。
- (シニア)
- ① 各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。
 - ② シニアの各カテゴリー(0-40から0-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。
- (クラブ)
- ① 派遣審判員として活動できる人材を発掘する。
 - ② 中体連と合同の4級審判資格新規取得講習会を開催する。
 - ③ 3級を目指す4級審判員を発掘し、指導育成する。
 - ④ チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。
 - ⑤ 組織の若返りを図る。
- (フットサル)
- ① 実働審判員の確保
 - ② フットサル審判員の能力向上
 - ③ 上級審判員候補の発掘
- (指導・育成・インストラクター)
- ① レベル合わせ実施と新アセスメントレポート様式導入。
 - ② 計画性を持ったアセッサー割当ての実施
 - ③ インストラクタースキルの修得及びアセッサー任務の義務化
 - ④ 2級昇級候補者の強化
 - ⑤ レフェリースタートアップセンターによる4級審判員育成
- (割当部)
- ① kickoffサイトの継続的有効活用
インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。
kick offシステムでの審判割当を継続する。また必要事項を送信するように試みる。(健康チェックシートや連絡事項など)
kick offをシステムでのアセッサー割当を検討する。(一部試合)
 - ② 各種別の連携強化
種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。
また、派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。
 - ③ 在野の審判員の発掘
級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。
(スタートアップセンターを軸に4級を底上げできるようにし、県内でアクティブに活動できる人材を増やす活動を行う。)
県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。
また、各種別からも積極的に活動したい方を呼びかけるようお願いをする。

目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名

(1種)

- ①1種各試合（クラブ杯、県リーグ、知事杯、自治体職員大会等）やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。
- ②派遣審判員を対象にした1種主催の研修会・体力確認会を開催する。
- ③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。

(2種)

- ①ユース審判員
 - ・ユース審判員の環境整備を行う。（ユースリーグ参加チーム内に有資格ユース審判員2名がいることの厳格化）
 - ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし更新不備とならないような情報を提供する。
- ①顧問
 - ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当てて指導する。
 - ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。

(3種)

- ①研修会の充実
 - ・10月－中学校県新人大会最終日
 - ・12月－下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合
 - ・3月－東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力（多種別との交流を含めて）
 - ・年1回以上の地区別研修会の実施（インストラクター派遣）（競技規則に関する研修会の実施）
- ②審判員の発掘と育成
 - ・多種別の審判員との交流を推進する。（3種→2種・1種へ）（4種→3種へ）
 - ・地区担当者との連携強化（定期的な会議の実施）

(4種)

- ①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。
 - ・実技指導者研修会（各地区審判アドバイザー）
 - ・3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者）
 - ・インストラクター研修会（3級インストラクター）
 - ・3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者）
- ②3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。
 - ・県トップリーグ
 - ・新規4級審判資格取得講習会
 - ・上記①の各種研修会
- ③他種別・他事業と連携し、審判員を派遣・参加できる機会を設ける。
 - ・県社会人リーグなど（1種）
 - ・高校サッカー選手権大会（2種）
 - ・下野杯（3種）
 - ・レフェリースタートアップセンター

(女子)

- ①ユース審判員の育成
 - ・5月4級新規取得講習会、11月4級更新講習会の実施
 - ・高体連女子、クラブチームと連携を図り実践の場の確保と継続的な指導
- ②研修会の充実
 - ・県リーグ帯同審判員実技研修会の実施

・3級取得者向けルール講習会の実施

③女子公式戦決勝4名女子で実施

(シニア)

①審判の取得・更新を積極的に図る。

- ・通知等で取得・更新を啓発する。
- ・登録チームに、審判員の確保を促す。

②研修会等の充実を図る。

- ・委員会でのルール研修
- ・リーグ戦や選手権大会での実技研修
- ・本県開催の関東大会への派遣協力

(クラブ)

①派遣審判員として活動できる人材及び3級を目指す審判員を
発掘し、指導育成する。

- ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
- ・栃木県U15・13リーグ
- ・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木
県大会
- ・3種リーグチャンピオンシップ
- ・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
- ・他 各種別各大会

②チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。

- ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
最終日

③組織の若返りを図る。

- ・新たな体制の構築

(フットサル)

①各種(県・地区大会)大会帯同審判員へのアプローチ
各種大会帯同審判員への技術指導
審判活動希望者募集の為の広報活動
(県協会HPへの掲載等)

②県リーグ担当審判員の主審技量の向上

- 担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての
競技知識の向上
- 各種大会におけるインストラクターによる実技指導

③F3昇級の為の育成コースの開設

- F2昇級候補者の育成

(指導・育成・インストラクター)

①新様式アセスメントの導入のためのレベル合わせ研修会を複
数回実施する。

②各インストラクター最低3試合以上のアセスメント実施を義
務化する。各種別及び各部と随時情報交換を行い、審判員育成
指導の連携を図る。

③割当部、各種別及び各部と連携を図り、アセッサーの早期割当
てに努め、強化対象審判員の継続的指導を実施する。

④インストラクタートレセンによるチュータリング・IT・アナ
リシス・プラクティカル等のスキル修得促進。受講の義務化等
資格要件制度をあわせて検討する。

⑤2級インストラクター昇格候補者の強化研修を実施する。

⑥経験の浅い3級・4級審判員の育成のため、レフェリースター
トアップセンターを継続開催する。

⑦2級審判昇格候補者を中心に3級審判員の強化対策を検討、実
施する。

11. グラスルーツ委員会

<p>2021年度の活動目標</p>	<p>〈全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 各連盟や委員会、種別を超えて多くの人が関わり、普及事業を提供する サッカー未経験者とチーム未所属者の普及事業への参加者数の増加 普及イベントの企画（フェスティバル以外） 普及事業に関わるスタッフの増加 <p>〈キッズ巡回指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政との連携 指導先の拡大と受益者負担への働きかけ TOYATAとの協働による指導内容の充実 巡回指導スタッフの発掘 <p>〈フェスティバル〉（キッズ・女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区と一体となったフェスティバルの開催 地区フェスティバルの内容の充実（チーム対抗戦のみにならないような工夫、親子サッカー等の提案） JFAフェスティバルを含むフェスティバルの回数増加 他種別連携での開催 <p>〈なでしこひろば〉</p> <ul style="list-style-type: none"> とちぎフットボールセンター等を活用したなでしこひろばの開催 <p>〈キッズリーダー講習会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短大・専門学校等での開催、女子登録チーム対象の開催 キッズ含む普及の重要性を発信する講習会・研修会の開催
	<p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたち「延べ23,000人」との交流 サッカー未経験者「延べ500人」の参加 キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名） 普及の重要性を発信する講習会・研修会の開催（2回） なでしこひろばの開催（10回）
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）</p>	<p>〈スローガン〉</p> <p>・ 栃木サッカーの発展はグラスルーツから ～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者養成（キッズリーダー、キッズインストラクター等） キッズ巡回指導400回（幼稚園・保育園100園、小学校45校） JFAフェスティバル（キッズ・女子・障がい者等）、および各地区フェスティバルでの未経験者へのアプローチと参加者の増加⇒継続へ繋げる なでしこひろばの開催により女子の小学生、中学生の登録者数増につなげる。 各地区フェスティバルのサポート（年2回以上の開催を目指す） フェスティバルの内容の充実と、関わるスタッフの増加 ユニクロキッズフェスティバルの開催に向けた準備 普及イベントの企画（フェスティバル以外） 他種別との交流事業の充実 とちぎ国体開催市町との連携による普及活動

<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ J F A キッズサッカーフェスティバル ・ J F A グラスルーツフェスティバル ・ J F A レディースガールズフェスティバル ・ J F A フットボールデー／女子サッカーデー ・ ユニクロキッズフェスティバル ・ 栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・ キッズリーダー養成講習会 ・ 地区主催キッズサッカーフェスティバル ・ 栃木 S C ・ 栃木 シティ F C ・ ヴェルフェ 矢板 等の巡回指導と キッズ事業への参加 ・ キッズ研修会 ・ なでしこひろば ・ 障がい者サッカーフェスティバル（3回）
----------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------